∓022-8502 七022-6302 岩手県大船渡市猪川町字前田6-1 TEL.0192-27-9911 FAX.0192-27-1395

http://www.pref.iwate.jp/info.rbz?nd=77&ik=3

山利

※気仙新聞第 10 号は「三陸復興特集」の第 1 弾とし てお届けいたします。リアス式の海岸は入り江ごとの)風土や文化を育ててきましたが、このたびの津 ごとに様々でした。それでも 40 ~ 50 どの入り江に住む人々も同じです。明るく元気 に立ち上がる気仙人の魂をこの誌面に感じ取っていた







[桜ライン311 http://sakura-line311.org/]

左から実行委員会の佐藤さん、橋詰さん、岡本さん、浅井さん

七千本、完成まで

 \bigcirc

畑に及びます。

そこに十

▲五葉山

大船渡市

m

おきに植えると合計

繰り返してはならない悔しい思い

実行委員会が結成されました。

かった辛い事実がありました。 前高田市民が味あわなけれ うことが報じられたのです。 模の津波が三陸沿岸を襲っ に植えることに決定。それには、英員会は市内の津波到達ライン沿 震災後、 同実行委員会事務局長で漁師 「一千年前にも今回と同 た なら の佐

ら約二十本の共神奈川県松田町

の寄付を受け、

遠野市

男さんが話してくれました。

年部も応援に

物見山(種山)

け

津波の到達ラインに桜

たプロジェクトです。

ない。

「桜ライン3

書、そんなる

そんなことは繰り

後害は、面積 でれだけに、 原沿いにある

そんなことは繰り返されないのは辛いけれど、悲惨なそのは、面積的にも人的にも大きだけに、山の際まで押し寄せいにあるまちとしては平地がいにあるまちとしては平地が

ら海側、 市内の青年団体を中心とする「桜ライ するプロジェクト 行っています。 ン311」実行委員会が企画・運営を 震災の恐ろしさを後世に 陸前高田市ではそんな風景を造り、 うに連なる桜が咲き誇る。 小高い場所から見 の津波で浸水した地域…> 実は平 -成二十三 が動いています。 れ 伝えようと その 年、 ば線のよ 東 線

田市長の『被災地の本当の話をしよ長が読んだ一冊の本。戸羽太陸前高協議会(以下市青協)の橋詰琢見会きっかけは、陸前高田市青年団体 を市青協に任せてもらうことに まりました。 まりました。そして、意図をよく知いかと考えていた橋詰さんの心に留災後、市青協で何かできることはな 書) でした。 りたいと直接市長と面談。その活 を植えたい」というフレーズが、 う〜陸前高田市長が綴るあの日とこ れから~』(ワニブックスPLUS) 参加団体を募って「桜ライン3 」というフレーズが、震。本文中に出てきた「桜(ワニブックスPLUS新 そして、 ない本数です。

達ラインの総延長を、

一地七図

田市内の津波の到

命を守る可憐な花

をもとに計算すると約

の命を守りたいのだと とがないように、後世の人

 $\epsilon \sqrt{}$

ま

たち

浜の人間はみんな大きういう話は前々かられ あ は津波は

のようなことが繰り返される 被害の大きさを伝えると同 潮堤はもたないだろうと酒 来るだろうと思っていまし 思うと悔し もっと、ちゃんと知らせて われていたのに…。 桜ラインにはその悔しさ そ るこ の席でも、防 時に を込 のことを 11 れ め、 ばと

> これ が繰り返されないことを、市民は強きな災害を後世に伝え、この悲しみ 別 ン ク昨 0) の花を咲かせることでしょう。年植樹された桜は、今年淡いピ 大 まで多くの人が愛でてきた桜に て 切な役割を担ってもら います。

1,

大

回を予定しています。に平成二十四年三月十 日に 今年淡いピ は 第二

市民に希望の力を与えています。

粉 な オープンに期待が膨らむ関係者

や銀行・コンビニなどが次々にオー さん、本屋さんに呉服屋さん、理容 ブン。がれきの中から新しい町並 西側には、このほか飲食の集合店舗 呼び戻してくれました。大船渡駅の 気を醸しています。 れ、仮設ながらも親しみのある雰囲 た商店や事業所の店主三十数人が集 が少しずつ立ち上がってゆく様は 店は震災前の生活のリズムを市民に 店や美容室。 店街」が昨年十二月一日にオープン まって作り上げた「おおふなと夢商 ました。六つの棟はデッキで結ば 毎日足を運べるミニ商店街の 産直野菜の店もあ 魚屋さんに花屋 開 つ

大船渡市大船渡町の駅周辺にあっ

夢商

中心に行われまり高田町の浄土寺を

住田町

十一月六日、

の浄土寺を回の植樹は

第一

えることを考えていましたが、 一初、市長は桜を公園か河原に植 実行

羽市長

た。

陸前高田市 気仙新聞のバックナンバーを 陸中海岸国立公園 下記のURLで見ることができます http://www.epix.co.jp/kesen_s.html

風の人にも土の人にもやさしい風が吹く −ギュッと詰まった「リアスの恵み」がここにはあります-

日に向かって頑張っている気

々 お を



ı

た。

株式会社八木澤商店 会長

) 八 で 代 て

フェスティバル副会長陸前高田市全国太鼓

はいます。 田の姿を見て「全滅だ!」と思っ 東京に戻り、テレビに映る陸前高 東京に戻り、テレビに映る陸前高 はの新幹線に乗っていました。 は出張す。三月十一日、河野さんは出張 はいます。 一〇〇年の八木澤商店。その一陸前高田市で味噌醤油を作

委ねました。を大い「廃業」も考えましたが、を失い「廃業」も考えましたが、を失い「廃業」も考えましたが、 る日がきたら必ず知らせてくださ「会社をたて直し、お醤油をしぼ

取り組んでいます

として日々頑張って

が元気を取り戻すことが恩返しだ ただいた支援の輪に対して、

初めから店を開けたものの、

も支援活動を継続しています。

太鼓フェスティバルを通して

ながら、会社と町の復興に全力全国からの励ましの声に支えら

ීම්



かりでした。大津波で開店したば を焼失し、十二月に陸前高田市内 さん。 冨山さんを応援したいと全国から 宙の営みから見れば自然災害は仕 五千枚以上のLPレコードが送ら 方ないと達観しています。 かりの店は流出しましたが、 にジャズ喫茶をオープンさせたば スの喫茶店を営んでいた冨山勝敏 内の衣料品店の一角に新生 大船渡市の碁石海岸でログハウ 今年三月十一日には大船渡市 震災前年の二月に火事で店 そんな 大宇



代表取締役社長 陸前高田ドライビングスクール(株)

野

三陸まる

aごと体験館

谷満恵さん

域再生のため雇用を創出するこ 業化により、 域の風土を生かした農業の六次産 田村さんが考えていることは、 落ち着きを取り戻しつつある今 震災前から取り組んできた地 復興に尽くした

喫茶「h

イマジン」店主

習生や社員たちに一人の犠牲もあの教習生たちの安否確認。幸い教が収まり最初にしたのは百数十名車教習の最中でした。大きな揺れ車がでいる。大きな揺れ東がでいる。大きな揺れ 田村さんも復興の中心となって働 車学校が復興支援の中心となり、 建物が壊滅したこともあり、自動 地 0 理に向かって頑張っています。 陸前高田市職員



た。 ます。 れるなど苦労を重ねましたが、 林業体験を経験した陸前高田市 ではご主人の実家から通勤. も馴染んだ時に震災に遭いま. 職員として採用されました。その 森さん) し、こころの切り替えがまだ出来 晩過ごし、またアパ 信頼していた上司を震災で亡く 埼玉県出身の菅野さん 大津波の時は市役所の屋上で 地元の男性と結婚し、 は三年前の大学卒業後 (旧姓亀 -を流さ 地域に 今

のために試行錯誤しながら日々の ずにいますが、 仕事に邁進しています。 陸前高田市の復興

ましたが、心の中には今でも の何もかもが一変してしまい 美しい姿を思い浮かべること 源郷と呼んでいた故 はっきりとあの頃ののどかで 三月十一日の大震災後、 級 一 気 一 気 他 、 、 、 桃

菅 野 祥子

ます。 できます)

て皆さんと共に復興に携わっ ができます。 りました。今後も音楽を通じ て「春なのに」という曲を作 歩んでいきたい気持ちを込 れずに、これ て行きたいと思 故郷の風景を忘 からに向 かって ()

のに」はユーチュ は必ず蘇ると信 と、そこに生きる ています。(「春な 人々の力で桃源 ブで聴くことが 気仙の自然 郷

ポルコア

コーッソ オーナーンレストラン

中野さんは、一旦高台へ避難。 営むオリジナ です。 記録やNPOから提供された移動 り、震災後はボランティアで写真 れましたが無事だった自宅に戻 店十ヶ月足らずのショップは流さ 本格的な仮設店舗の開店を計画 開設。当面の目標として、 販売車の運営に携わってきま 地震の時、 同時に仲間を募り共同店舗を 本業の塗装業の傍ら ショップに戻った 新たに

気仙のことばで体験を語り यह इंग्रिं



のな Ų

生の時にも、この庭でチリ地震津見えました。三浦さんは小学六年いると、黒い波が押し寄せ電信柱いると、黒い波が押し寄せ電信柱の高台。自宅庭から海の方を見て 直感し、保育園に通う孫を引き取いました。「大津波がくる!」とときにはスーパーで買い物をして渡の名物バスガイドさん。地震の渡の名物バスガイドさん。地震の三浦京子さんは地元気仙地方の 波を見ていたといいます。 高台。自宅庭から海の方を見て自宅は大船渡湾奥にある赤崎町、すぐに自宅に直行しました。

継ぎたいと考えています。 体験をたくさんの人たちに語り 震災後のガイドの仕事はまだ少 いですが、気仙のことばで津波

S

い厨房はそのままに、次の日からいいます。地震で使い物にならな食で救援活動すると決めていたと 災で三陸の食材のすばらしさを再 炊き出しのおにぎりを作って避難 所回りに明け暮れました。この 識したという山﨑さんは、 _ のオーナーシェフ山﨑純

食の支援活動を継続しています。



﨑さん、いざ震災が起きた時には修行でイタリアに滞在していた山した。阪神淡路大震災のときには段で止まり、間一髪被災を免れま ん。津波は幸いにも店入り口の階 アンレストラン「ポルコロ大船渡市盛(さかり)町のイ ケセン語のバスガイド

部として自分しかできない役割が 部として、また美しい郷土の語り 震災後は運転を休止している三すっかり流出してしまいました。 るごと体験館」を開業したばかり 陸鉄道の盛(さかり)駅に設けら ス線のさんりく駅近くに「三陸ま して働いています。三陸鉄道が再 開通した暁には、 た「ふれあい待合室」の室長と 熊谷満恵さん。大津波で建物は 昨年の四月、 三陸鉄道南リア

ともに三陸鉄道南リアス線のデザ あるはずと語る熊谷さん。仲間と に向けて着々と準備をしていま イン会議を立ち上げ、来るべき日 大津波の語り

青空に舞う勇壮な虎舞

根岬梯子虎舞組

さん

上で、観衆が見上げるなか、勇壮に舞います。頭は獅子ですが、上で舞いますが、これは約二十メートルの杉の木でできた梯子の ています。「根岬梯子虎舞」というもので、多くの虎舞は地面の 前高田市の根岬(ねさき)部落には、少し変わった虎舞が伝えられ 岩手の沿岸にはいくつかの「虎舞」が伝承されていますが、 ゅういち

海は部落の最優先事

子虎舞 風流唐獅子曲乗之体」 梯子虎舞) 地元住民で

通称はなぜか虎舞。過去に津波で資料が流失して、その理由は

今回の大震災も乗り越え、明日への希望と支援への

不明だとか。

感謝を胸に、勇壮に虎舞が舞います。

むかしこのあたりの神様が供の者を

作る「根岬梯子虎舞組」がその保存・伝でいます。

「つるき」神社の祭りなどに虎舞を奉納(つるき)神社の祭りなどに虎舞を奉納(つるき)神社の祭りなどに虎舞を奉納の部落のほとんどの大人が参加して梯子の部落のほとんどの大人が参加して梯子の部落のほとんどの大人が参加して梯子の部落のほとんどの大人が参加して梯子の部落のほとんどの大人が参加して梯子の部落のほとんどの大人が参加して梯子の部落のほとんどの大人が参加して場合と見ると見がいる。 盆に帰らないことがあっても、祭りのと根岬を出て暮らす人たちも、お正月やおきはお客さんを断ってきたといいます。 とって梯子虎舞はそういう存在なのできには帰って来るとか。部落の人々に盆に帰らないことがあっても、祭りのと む菅野修一さんも、むかしから祭りのと退。虎舞組代表で、漁師であり民宿も営め出演者は祭り当日まで連日仕事を早めい午後三時ころから始めます。そのた

子を表現したのが根岬梯子虎舞です できたといいます。その才坊と獅子の様 上に導いたおかげで神様が通ることが く手を阻まれ、供の才坊が獅子を崖の 連れて出雲の国に行ったとき、獅子に行

起きていない実績や風情を鑑みて、ネッいて相談するのですが、これまで事故がいくのです。今でも警察署長が来て安全んは笑いますが、そうして梯子に慣れて す。「~ トなしで実施しています。 ろうとすれば危ない ています。 高い梯子の上での命綱もつけ そのため舞手は二十歳以上に限定 根岬では中学生にもなると梯子の上 少しの間違いでも事故につながりまい、梯子の上での命綱もつけない舞 「今は一 最近では子どもが ば一〇〇円もらえたそうで が、そうして梯子に慣れて、〇〇〇円かな」と菅野さ いと止められそうです 梯子に上が

のでしょう。います。舞うときの気合いがそうさせるいます。舞うときの気合いがそうさせるいます。むしろ、祭りが終わって梯子をんです。むしろ、祭りが終わって梯子を も一間(約一八〇㎝)」に作られたものですが、 ところで、 現在の梯子は昭和四十九年

しれません。ないもの」そ れるのですが、昨年は三月の大震災のた十月九日。例年ならば梯子虎舞が奉納さ旧広田村社である黒崎神社の例大祭は いまり、それが根岬の心意気なのかもいもの、「前より短くするわけにはいから、梯子は作るたびに長くなっているのが、場ではかし一間(約一八〇㎝)ほど長いそうではられたものですが、以前のものよりに作られたものですが、以前のものよりに 舞うことが支援者へのお返し



いっぱなしでいいのか。いっぱなしでいいた。「圧日けてくれていた。」

アの人たちがたくさん来て、

『広田は黙ってもん来て、一生懸命

という声も出て

という想いがありました。「ボラは、こんなときだからこそ何かを

(田は黙ってもらい) という (田は黙ってもらい) でいっ 生懸命助い (日本) でいったいい (日本) でいったいいい (日本) でいったいいい (日本) でいったいい (日本) でいったいい (日本) でいったいい (日本) にいったいい (日本) にいったい (日本) にいったいい (日本) にいったい (日本) にいったい (日本) にいったい (日本) にいったい (日本) にいったい (日本) にいっ

たんです」と菅野さん

そんなあるとき「復興祭と

まっていめ、例

例大祭を行

わないことが早々に

写真集上新

刷

版

写真集や新聞の縮刷版をず 気仙地区で出版販売され

項 を舞うことでお礼の気持ちを表してはどっか」とメンバーに問いました。虎舞をて、日々話題を探していました。虎舞をて、日々話題を探していました。虎舞をでいるという実情を伝えたいと思ったのです。 だったことから菅野さんも賛成。舞の道具は残っており、メンバー ったことから菅野さんも賛成。「虎舞の道具は残っており、メンバーも無事。練習道具は津波に流されたものの虎ってはどうか」という案が浮上しまそんなあるとき「復興祭という形で ってはどうか」という案が浮上

「震災で亡くなった人に祭りが嫌いだって震災で亡くなった人に祭りが嫌いだっところが、周囲からさまざまな意見が出て決断が、周囲からさまざまな意見が出て決断けて検討したといいます。

でである。実施を反対していた人た違っていた。おれもびっくりした」と声わったときの目つきが違った。会話も野さん。「やった人も見に来た人も、終野され。「やなるなどではなかった」と菅 行いるという自信があったのさ」と菅野できるから。何もしないより、絶対前に思っていた。何かをすれば次への土台がです。「結果は、たとえ半端でもいいとちまでもが見に来て、満足気だったそう さんは強い信念を明かしてくれまし

地域の絆をつなぐも 0

で、そのためにも、祭りを続けていかなるもの。祭りに参加するなら神仏に頭をおれだけでなく、この地域では世代を越れだけでなく、この地域では世代を越おれだけでなく、この地域では世代を越おれだけでなく、この地域では世代を越おれだけでなく、この地域では世代を越おれだけでなく、この地域では世代を越おれだけでなく、この地域では世代を越おれだけでなく、この地域では世代を越おれだけでなく、日頃から手を合わせるようにしているものないとだめ。堅苦しいようにという話をする。で、その次の祭りまで…と続いているものときだけでなく、日頃から手を合わせた。そのためにも、祭りを続けていかないと思う。そのためにも、祭りを続けていかないと思う。そのためにも、祭りを続けていかないと思う。そのためにも、祭りを続けていかないと思う。そのためにも、祭りを続けていかないと思う。 いて語ってくれました。最後に、菅野さんは祭り てくれました。「神様は祭り菅野さんは祭りというものに



東海新報の

三月十

一日から

特別縮刷版

震災以降、さまざまな形でご支援や援助 をいただきながら、復興に向けて動いてい ます。その中からNPOや団体のホームペー

■一般社団法人SAVE TAKATA http://savetakata.org/

■陸前高田市復興プロジェクト

■陸前高田市災害ボランティアセンター http://rikutaka.ti-da.net/ ■東日本大震災復興支援プロジェクト One Love 大船渡

http://onelove-ofunato.jp/ ■大船渡市社協復興ボランティアセンター http://ameblo.jp/ooshakyo/





A4判·P224 1,500円 (株)東海新報社 TEL.0192-27-1000



A4判·P96 1,500円



タクミ印刷(有) TEL.0192-55-2178



A4判·P170 1,500円 (株)東海新報社 TEL.0192-27-1000





A4判·P96 2,000円 村田プリントサービス TEL.0192-26-3738





(有)高田活版 TEL.0192-55-2694



消えた高田松原

嫁添 • (1)

同嫁 入り や婿入りに当たって、 女嫁性や を婿

|嫁添い」や「婿添い」と言えば今では、それなりの年配の同性で、婚儀や入家式やなりの年配の同性で、婚儀や入家式やなりの年配の同性で、婚儀や入家式やなりの年配の同性で、婚儀や入家式やる。

た。ぎられ かし「婿まぎらかた。名称も嫁添いで か って も嫁添いっ ではなく、「なし」と呼ばれてはなく、「な で れ嫁は

いう。とこ振り かし」は、なご振り ここ振りの悪いないし」は、実際のほ 嫁まぎら りの悪い者が、その役に、、実際の婿よりも、いさりの良くない女性、「婿ぎらかし」は、嫁よりも 仅になるといささかお ŧ 少々 お

になるのである。であるが、よく見れてあるが、よく見れな。婿の方が立派のない、よく見れていまぎらわり い年齢のおっに、まぎら なるのである。嫁・婿の方が立派であるとあるが、よく見れば明らか つまり「まぎら 者、その っわしい しいほど派手なも か

津波

がなく、弱まってきたことを示す事象姻における若衆組や若者組の影響力うになる。つまりかつてのように、婚もる。それが、村内婚から村外婚に移ある。それが、村内婚から村外婚に移ある。それが、村内婚から村外婚に移当の嫁や婿の "引き立て役"なので当の嫁や婿の が姻う道行あ当 とも言えるのである。

ることもあったそうだ。の嫁と同じ服装を身につけて 嫁 そのむ まぎら ."じ服装を身につけて同行. らかし」に扮する女性は、本.かし、三陸海岸地方の漁村 す物の

あせののと 嫁と思い はなかったものの、仲そのため、婿殿はさす 家族も、「まぎら たと という。 という。 という。 - まきらかし」の - まきらかし」の tantek 九度の盃事をx 小の女性を本始 中人夫婦も婿² がさ物方こ

リアスの歳時記は金野靜 9 ワンライフ出版) より抜粋したも野一著『海の年輪』

手前のがれきの所に先代の建てた旅館が ありました。奥に見えるのがホテル福富

津波被害から修復した幹子さんのご主人 忠和さん制作の油絵と娘さんの博子さん

復興の願いを込めたグッズの品々

本松グッズ」を制作し、

購入していただく たり高田松原の再

[一本松プロジェクトhttp://www.ipponmatsu-pro.com/]

ことで自立の支えに.

考えたことから始まりました。

全国からの支援者の力を借りながら「

たちが自分たちに出来ることはないかと 田松原再生に向けて、避難所で暮らす女性 より一本だけ残った奇跡の一本松。この高

陸前高田市の名勝「高田松原」で津波に







建物が無くなった津波浸水地域。よくぞ中の鉄骨などのがれきが散乱し、周辺の中の鉄骨などのがれきが散乱し、周辺の二代目代表の佐々木幹子さんにお会いし二代目代表の佐々木幹子さんにお会いしのかと信じられないほど真新しい館内で かと信じられない本当に津波で二階 階の天井まで被災した ることができなかったはずです。

「始め、七月の中旬からまき 震災直後から家族でホテル」

からは業者が来て補でホテル内の片づけ

工事が始まりました。 如め、七月の中旬えした

「業者さんたち

陸から来て、仕事が終わると帰るで

毎日の往復も大変だから、

では、これでので助かりました」でありそうになったけど、目の前の川ででは、野に避難していました。船がホテルにぶて津波の時は従業員とともにホテルの三建物が無くなったとい る!」と決意していたそうです。最切こた。実は津波の夜から「絶対に復興させ佐々木さんの復旧への動きが始まりまし 「わたしの母親が先代で、母室の片づけから。 と震災当日を振り返る佐々木さん。向きを変えてくれたので助かりましつかりそうになったけど、目の前の階に避難していました。船がホテル 客室に避難したことで布団も有り、 震災翌日、 夜は布団にくるまって寝たそうです。 従業員たちを帰してから 活最っ の初に そ 階 開させました。 工事も終わり、朝食のみの食事提供も再た二階も宿泊再開。十一月末には一階のを再開し、十月の初めには工事の終わっ最初は浸水しなかった三階のみで営業 一なの」という言葉もこれに行き、水道と電気の早期復旧にこぎ

決まった人間は強いです」と決意に満ちたしはここでしか生きられない。覚悟が地と四億から五億の建物が必要です。わです。場所を変えてとなると五百坪の土「無我夢中でした。ホテルは建物が商売 をここで作っていきます」と柔らかい表日も見えるし。わたしは自分なりの幸せても素晴らしい景色ですよね。朝日も夕 ちょっとがれきで寂しくなっ たまなざしで話す佐々木さん。視線が窓 無我夢中でした。 外に向くと、 「前が川、 後ろは たけど、 海。 と

えられたもの。やってやろうかと思いました。耐えられるた失先にこの津波。やっぱりも災害に遭わずに終わるのか

やっぱり試練が来た

すね」と笑顔を見せる佐々。やってやろうじゃないかた。耐えられるかどうか与

大きく復興してきました。

わるのかと思っていした。私の人生は何回の大きな災害から回の大きな災害から

地震津波という二回

ためにもホテル福富が再開したことは喜いとには復興への弾みが出ません。そのでしょう。彼らの受け入れ先を作らない興のために多くの業者が気仙に来ること興のために多くの業者が気仙に来ること順で川を見つめていました。

感謝の気持ちと私たちの

呼吸を感じ取ってほしい

くては四ヶ月でホテルの再開にこぎつけては四ヶ月でホテルの再開にこぎつけですが、被災したホテルの中では最初のですが、被災したホテルの中では最初ので四ヶ月かかったわ」と笑う佐々木さんいで電話局などの工事の人たちの宿泊をいで電話局などの工事の人たちの宿泊を、代はチリ地震津波のあと、十日くら

[No.09]



多田欣一 住田町町長

陸前高田市の後方支援に回りました。 指揮のもと、 た。その住田町は多田欣一町長の 十二%が森林に囲まれた緑豊かな住 町で構成される気仙地方。 船渡市 この中で唯一 震災直後から大船渡市 陸前高 田 被災を免れ 市 田 町の 陣 ま 0) し 田

からスタートしたホテル福富ですが、チリ地震津波と今回の東日

ホテル福富は昭和二十七年創業の老舗ホテルです。

先代が旅館

本大震災の津波で二回の津波被害に遭っています。

今回の被災か

復旧を果たした二代目の佐々木幹子さんにお話を伺いました。

難民たち。素早く対処しないと様々な うです。 何とかしないといけ 題が起きてくるだろうと感じ 多 避難所にいる人たちを見て「早く 町長は震災翌日に両市を見 狭い空間に押し込められた避 ない」と思ったそ ま

まってもらったの。

ボランティ

市役所や東北電力に何度もお

レルドー にこぎの なお願い なおに にこぎん

動きを加速

設住宅の建設を決断。この考えは県 建てられ被災者が暮らしています。 設住宅の開発を行ってきました。 設住宅の構想を持っていて、 ました。 りにスピー 国を動かし、 所の様子を見た多田 さいわ ·では住田町内に九十三棟が-ド感を持って建設が行われ-、当初の多田町長の考え通 ド感を持って建設が行わ 住宅産業を設立し、 部や廃校の施設を支援 町では以前から木造 『町長は、 第三セ すぐに 木造 避難



聞第10号の左上に

表紙のデザイン

を 齟

に

7

13

(岩手県政策地域部地域振興室)

があります。これ

は奇

金温の色

天才 した

ス 書家と が 子さん

して注目を集めている

澤

の作品です。

P 仮 ク

動のために開放するなどの支援も

目標は、木造仮設住宅のスタンダー 行ってきました。 国でも珍しい町です。 建築材を作る一連の流れ 住田町は、製材からプレ が全てある全 町長 カットま 0 次

販売している会社です。

してい

しの

鮮な魚貝を仕入れて、

大船渡市三陸町にあ 場」は地元の漁

エを

ウェブサーのる「三陸・

大十トラからだれる

ま波で新た

では会社がすべて流出

した。

生産が可能になります。」 ことで山にお金が戻り、 することで素早く供給ができる。 にはわたしたちが見ている遥か先 配備しておき災害時に対応する。 キットを、 かりです。 を作ることなそうです。 に輸出することもできます。 思っています。 一今回の木造仮設住宅はあくまで足 町が見えているかのようでした。 まとまった数作りたい わたしは木造仮設住 それを全国数十カ所に 多田町長の 森林資源の こうす 海 そう 宅 と のが

[三陸に仕事を!プロジェクト

援を得て、今では岩手 は企画会社やテレビ局なンガ」作りでした。この 三百人が参加して 多くのミユー com] ン た どサち ح 11

www.sanriku-shigoto-project.com]

震災直後、普段からお世話になって、今では岩手・宮城の両県でなくなって…」とつぶやくのを聞いたのがこのプロジェクトのきっかけでした。男たちはがれきの処理などで忙した。男たちはがれきの処理などで忙した。男たちはがれきの処理などで忙した。男たちはがれきの処理などで忙した。男たちはがれきの処理などで忙した。男たちはがれきの処理などで忙した。男たちはがれきの処理などで忙した。男たちはがれきの処理などで忙した。男たちはがれきの処理などで忙した。男だちはがれきの人にある。 なくなって…」とつぶないる浜のおばさんたち 全くなくなってしまっ した。男たちはがれき が忙でたもて

ちょこっとプレゼント

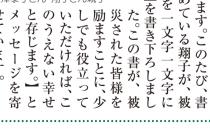


読者の皆様から気仙新聞への感想やご 意見を募集しています。ハガキまたは 封書に「ちょこっとプレゼント応募券」 を貼り、住所・年齢・お名前を明記のう えお送りください。抽選のうえ5名様 に、「三鉄オリジナルグッズセット」を プレゼントさせていただきます。

(第10号の〆切は 2012年3月31日です)

[応募先]

₹022-8502 岩手県大船渡市猪川町字前田6-1 岩手県沿岸広域振興局 大船渡地域振興センタ 「気仙新聞」係



うえない

ツ

セ

1

ジ

[編集後記] 今回の第10号は、「復興特集号」として発刊いたしました。未曾有の災 禍に遭いながらも気仙人が不撓不屈の精神をもって艱難辛苦を乗り越 え、「三陸復興」の合言葉のもとに助け合いながら日々過ごしていること をご理解いただければ幸いです。

なお、前回の第9号につきましては、平成23年3月15日に発行するこ ととして準備しておりましたところ、同年3月11日の東日本大震災津波の 影響により印刷中止のやむなきにいたり、新聞の現物配布はいたしてお りません。このため第9号は、岩手県(沿岸広域振興局)のホームページ上 で公表・掲載しておりますので、ご理解くださるようお願いいたします。 (第1号から第9号までのバックナンバーは、www.epix.co.jp/kesen_s.html でご覧になることができます。)

[気仙新聞 第10号 発行:平成24年1月27日]

岩手県気仙地方への移住・定住などのご相談は

下記の窓口までお問い合せください。

●沿岸広域振興局 大船渡地域振興センター(「気仙新聞」係) 電話 0192-27-9911 http://www.pref.iwate.jp/info.rbz?nd=77&ik=3 ●岩手県の総合窓口「定住・交流サポートセンター」

·電話 019-629-5194(直通) http://www.pref.iwate.jp/uji_turn/ ●首都圏での総合窓口「いわて定住・交流支援センター」

(いわて銀河プラザ Uターンセンター内) 電話 03-3524-8282 http://www.pref.iwate.jp/hp0401/ ●大船渡市の窓口「企画政策部企画調整課」

電話 0192-27-3111 http://www.city.ofunato.iwate.jp/ ●陸前高田市の窓口「企画部企画政策課」

電話 0192-54-2111 http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/ ●住田町の窓口「町づくり推進課 移住相談窓口」

電話 0192-46-2114(直通) http://www.town.sumita.iwate.jp/